

普及現地情報



発信年月日：令和4年（2022年）10月18日
所 属 名：高島農産普及課
番 号：H22005
部 門 分 類：120（麦・豆・雑穀）
発 信 者 名：小嶋俊彦 三木幸次

麦類のさらなる作付け拡大と飛躍的な単収向上のために

高島市における大麦「ファイバースノウ」の作付け拡大と飛躍的な単収向上を目指し、JA レーク滋賀今津営農経済センター（9月28日）、同安曇川営農経済センター（10月12日）において本年度作付け予定者を対象とした研修会を開催しました。

高島市では、平成5年頃まで400haを超えるほ場において麦類が作付けされていましたが、平成20年頃には70haまで減少していました。

しかし、令和元年からJAや高島市などの関係機関と連携して作付けを推進した結果、土地利用型経営体の所得確保のためには麦類の作付けがたいへん有効であることが徐々に再認識されるようになり、令和4年産においては37名、121haで作付けされ、平均単収は316kg/10aとなりました。

このような状況を踏まえ、さらなる作付け拡大と単収向上を目的にJA、農業センターと連携して研修会を開催したところ、23名の参加がありました。

研修会では、JAより麦類の需給動向について説明し、当課より麦類の作付けによる所得向上効果やこれまでの実証結果をもとにした排水や施肥に関する技術改善を提案しました。

参加者からは、需給動向に関する質問のほか、肥料価格の高騰を受け、より低コストで単収向上が期待できる「生育後期重点施肥」に関する質問が出されました。

今後、当課では、「生育後期重点施肥」や小麦「びわほなみ」の現地実証等を通じて、生産コストの低減や需給動向に応じた麦づくりを推進し、土地利用型経営体の所得向上を図ります。



(JA) 麦類の需給や生産資材に関する説明



(当課) 栽培技術に関する改善提案